

第39回保育総合研修会

開催要綱

テーマ

子どもたちの
未来のために
今こそ“保育の
グランドデザイン”を!!

趣旨

子ども・子育て支援新制度の具体的内容を決める子ども・子育て会議が進行しています。また、新制度の流れの中では、幼保一体化、幼児教育（“学校教育”と位置づけられる）の無償化等の議論も本格化し、制度改革の準備が早いペースで進められています。

そのような中だからこそ私たち保育関係者には、生涯にわたる人生の土台の形成期ともいえる乳幼児期の子どもたちの育ちについて、改めて考え合うことが求められているのではないのでしょうか。私たちは、すべての子どもたちに保障されるべき“子どもの権利条約”に基づく“子どもの最善の利益”の観点からも、未来を担う子どもたちのために今後の長期的展望を見据えた『保育のグランドデザイン』を、自らが描き、それぞれの地域の中で発信できる力を持ちたいと思います。

今回の保育総合研修会では、まず『保育のグランドデザイン』についての基本的な論点を整理し、それらが理想を描くだけにとどまらず、実際の保育の場や地域の子育て支援にもつなげていけるように、理論と実践の両面から学びを深める機会にしたいと思います。

期日

2014年

1月29日[水]～31日[金]

会場

神戸市

ANA クラウンプラザホテル神戸

〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目

TEL 078-291-1121 / FAX 078-291-1151

定員

500名

参加費

17,000円 (非会員19,000円)

*資料代及び消費税を含みます。

懇親会費

8,500円

宿泊費

ANA クラウンプラザホテル神戸

A : 12,000円 (シングル)

B : 9,500円 (ツイン)

*各タイプとも、1泊朝食付、消費税を含みます。

昼食

1,800円 (1/30・弁当)

主催

公益社団法人

全国私立保育園連盟

協力

公益社団法人

神戸市私立保育園連盟

協賛

A I U 保険会社

東京海上日動火災保険(株)

(有)ゼンポ (株)トーホ

(株)サンワールド

(一般財団)総合福祉研究会

開会挨拶

基調報告・提言…全私保連常務理事

行政説明…厚生労働省 依頼中

講演＋シンポジウム

講演

なぜ今“保育のグランドデザイン”が必要なのか

汐見稔幸氏●白梅学園大学学長

シンポジウム

“保育のグランドデザイン”を描くために

…今大切にしたい保育（教育）とは何か

汐見稔幸氏●白梅学園大学学長

鈴木眞廣氏●全私保連保育・子育て総合研究機構研究企画委員会委員長／千葉・和光保育園園長

室田一樹氏●同研究企画委員会委員／京都・岩屋保育園園長

コーディネーター

久保健太氏●同研究企画委員会委員／篠原学園専門学校こども保育学科学科長

大きな制度改革が進む中で、何のために制度があるのか、本当に子どものための制度改革になっているのか、戦後の日本の保育を含めて、根本から問い直されるべき時期に来ているのではないのでしょうか。保育・子育て総合研究機構研究企画委員会では、そんな議論が出発点となり、2013年6・7月発行の「NEWSLETTER」（保育・子育て総合研究機構だより）等で、『保育のグランドデザイン』の必要性を訴えてきました。

そこで、今回の講演とシンポジウムでは、汐見稔幸氏より過去・現在の「保育・子育て」の現状とその課題から、本来望むべき未来の社会と、それを担う子どもたちのために、今どんな『保育のグランドデザイン』が必要とされるのかをお話しいただき、その論を受けて、「保育通信」での対談を終えられた研究機構研究企画委員会委員長の鈴木眞廣氏、同委員の室田一樹氏を交え、実践事例を含めながら、さらに議論を深めたいと思います。

*汐見稔幸氏と研究機構委員との対談形式による『保育のグランドデザイン』を視野に入れた「乳幼児期の教育を考える（第Ⅲ期）」の連載が開始されます（「保育通信」11月掲載予定）。誌面の都合上、掲載できなかった事柄や今後の展望についても、存分に語り合ってください。

懇親会

第1分科会 保育者の専門性を高めるには [定員60名] …ファシリテーションを活用した園内研修と教材研究

●講師

岡 健氏●大妻女子大学教授

保育者の専門性を高める営みは、単に一人ひとりの保育者の知識や技能の向上だけでなされるわけではなく、園の風土（職員全体の保育観の共有）や保育者間の協働によって支えられています。

まずは、子どもや保育について率直に語り合い、保育者がお互いに成長し合える土壌を園としてどのように育むことができるか。また、忙しい日々の業務の中で、どのようにしたらそのための時間を無理なく確保する仕組みが持てるのかを考えます。そして、子どもが主体の保育、子どもとともに考え展開する保育をどのようにすれば実現できるのか。そのためのヒントとなるファシリテーションの活用や本来あるべき教材研究の視点を理論と実践の両面から学び、これからの保育者の専門性について考え合いたいと思います。

*教材研究…教材とは遊具・教具などの物だけでなく、ゲームや歌、自然環境や子どもどうしの関係性など、さまざまな材料や素材、状況、事柄等を含む。それらを乳幼児期の発達にふさわしいものとして整えるために「教材研究」を行う（参考：森上史朗・柏女靈峰・編『保育用語辞典』[ミネルヴァ書房]）。

第2分科会 感覚統合の視点で考える “気になる子の理解と保育環境” [定員60名]

●講師

木村 順氏●作業療法士

「ちょっと気になる子」「育ち（て）にくい子」が増えている…という実感は、もしかしたら保育者の誰もが抱いていることかもしれません。それはいつ頃から始まっていたのでしょうか。何か想定される要因はあるのでしょうか。

この研修では、そんな現状に至るこれまでの時代背景を押さえたうえで、療育の場での一つのキーとなる“感覚統合”への理解を深め、乳幼児期のすべての子どもたちにとって、どのような生活や遊びの場（＝保育環境）が保障されるのが望ましいのか、異年齢のかかわりの重要性なども含め、今の保育現場でできること、取り組むべき課題について考えてみたいと思います。

第3分科会 最新の研究から学ぶ 新しい赤ちゃん像と保育者の役割 [定員60名]

●講師

遠藤利彦氏●東京大学大学院准教授

井桁容子氏●東京家政大学ナースリールーム主任保育士

待機児童解消が声高に唱えられる中、0・1・2歳児の受け入れ枠が大きく広げられました。その結果、0歳児30人が一室で保育されている状況も、各地に見られるようになりました。「保護者のニーズには応えていても、果たして子どもにとってはどうなのか」と、葛藤を抱えながら日々を送っている保育者も多いのではないのでしょうか。

一方、最新の科学的知見により、乳児保育の重要性はさらに明らかとなり、より質の高い保育実践が求められています。乳児期の視覚・言語・感情の発達やアタッチメント（愛着理論）など、最新の研究から乳児期の子どもの育ちや遊びの意味を考察し、それらの知識を実際の保育にいかしていくことが重要です。

保育者の専門性を深めることで、決して恵まれているとはいえない環境の中でも、子どもたちの育ちを支えていくことはできるかもしれません。「明らかになってきた乳児の発達」に合わせた保育環境や保育者の役割について、理論と実践の両面から学びたいと思います。

第4分科会 すべての子どもに 求められる制度の構築に向けて [定員100名]

■運営 全私保連・保育制度検討会

●講師

国、地方自治体行政関係者、有識者（予定）

子ども・子育て支援制度の施行に向けて、子ども・子育て会議及び子ども・子育て会議基準検討部会において検討が進められ、基本指針についてはとりまとめられて各自治体に通知をされました。また待機児童解消加速化プランにより、新たな小規模保育事業についても前倒し実施に向けて具体的な協議が行われています。以降、保育の必要性の認定や認定こども園移行に関する確認制度について、幼保連携型認定こども園の認可基準、地域子ども・子育て支援事業等の詳細について検討をしていく段階に入っています。

本連盟もこれらの会議に委員として参画をしながら、これら諸課題について協議を重ねるとともに、保育三団体協議会を中心に連携・協力のもと、より良い制度構築に向けて取り組んでいます。

当分科会では、こうしたさまざまな課題について精査しながら、すべての地域の子どもの最善の利益を守り、保育・子育て支援の将来に向けた質の向上につなげるために、参加された皆様とともに検討していきたいと考えます。また、実際に各自治体に開設されつつある地方版子ども・子育て会議の状況等についても取り上げていきたいと思えます。

皆様のご参加と、当日のご意見・お考えをぜひお待ちしております。

第5分科会 日本の子どもに豊かな保育環境を整えるために [定員60名] …「保育環境評価スケール改訂版」(ECERS-R) をいかす

■運営 全私保連・保育国際交流運営委員会

●講師

埋橋玲子氏●同志社女子大学教授

子どもの人生のスタートをよりよい保育条件のもとで過ごさせたいという願いは、どの親・保育者にとっても共通です。世界はすべての人が知的能力を発揮することを基礎とする社会構造が進んでおり、いっそう乳幼児期の保育・教育に力が注がれています。一方、わが国は新しい保育制度のもとで、乳幼児期の保育の場が多様化する時代に入りました。保育施設の形態や人的条件に自治体の裁量の範囲が拡大され、企業を含むさまざまな主体が保育を担う中、改めて「保育の質」が問われています。

『保育環境評価スケール』（①幼児版、②乳児版／発行：法律文化社）は、開発されたアメリカはもとより英語圏以外にも広く翻訳され、子ども中心の保育環境を向上させるための有効なアセスメントのツールとして活用されてきました。日本でも、訳者の埋橋玲子氏による普及が進み、研修や保育方法の分析、保育者の資質の開発、そして、より良い施設環境の整備のために活用され、効果を発揮しています。

今回は、実際に日本と欧米の保育現場で使われている事例を紹介していただき、乳幼児期の豊かな育ちを保障するための基礎的環境のあり方を学び合いたいと思えます。

すでにこのスケールを活用されている皆様や、関心をお持ちの皆様は、ぜひご参加ください。

第6分科会 よりよい職員集団を目指して [定員50名] …お互いの気持ちにどう寄り添うか

■運営 全私保連・保育カウンセラー企画委員会

●講師

大竹直子氏●千葉大学カウンセラー、法政大学・大学院兼任講師、臨床心理士

●実践発表

かもめ保育園 [徳島県私立保育園連盟]

いώρα保育園 [(公社)福岡県保育協会]

保育園にとって、職員間のよりよい人間関係づくりは大切な課題です。しかし、保育現場の毎日は忙しく、お互いを支え合う関係が希薄になりやすい現状があります。そうした状況が深刻化すると、やる気を失ったり、保育や仕事に喜びを感じることができなくなり、体や心のバランスを崩してしまうこともあるでしょう。

一人ひとりの保育者が楽しくイキイキと保育に携われるためには、どのようにチームワークを築いていくことが大切でしょうか？どうしたら、お互いの気持ちに寄り添い、よりよい職員集団を築けるでしょうか？そのために今、私たちにできることには、何があるのでしょうか？

この分科会では、保育カウンセリングを学んだ2人の保育者が、「管理職の立場」「職員の立場」から事例を発表します。そして、事例をとおして、参加者の皆さんと話し合いを行います。

皆さんで、お互いの気持ちに寄り添い合える「よりよい職員集団」のあり方を見つけてまいりましょう。

第7分科会 「自己肯定感を育む保育実践」 一人ひとりの子どもの心に目を向けた保育とは [定員50名] …エピソード記述を通して学ぶ

■運営 全私保連・全私保連運動推進委員会

●講師

鯨岡 峻氏●中京大学教授

室田一樹氏●京都・岩屋保育園園長

むごい暴言や暴行を受け、子どもたちが自らの命を絶ったり、安易に命を奪ったりするような事件が後を断たず、自他ともに「かけがえのない人」という考えの欠落を感じるような報道に、しばしば心を痛めてしまいます。

「自己肯定感」って何？

大切な命を授かり生まれてきた子どもたちが、心に人としての根っこを育む乳幼児期。今、目の前にいる子どもたちが、自分を丸ごと受けとめ、心を見つめてくれる自己肯定感を持った大人に出会えるかどうかは、これからの育ちに大きく影響するのではないのでしょうか。

この分科会では、子どもたちに育てたい「自己肯定感」とは何か、またその「自己肯定感」はどのように育まれるのかという視点を、エピソード記述という子どもの気持ちや思いに迫る保育研究の手法を通して話し合いたいと思っています。

「生まれてきて良かった」「ここに居ていいんだ」と、子どもも大人も思えるような保育のありよう、心を育てる保育実践を一緒に探っていきましょう。

今日の気づきから、自分自身や保育実践が新鮮に省みられることを、私たちは願っています。

第8分科会 子ども／子どもたちの持つ “学びの力”に『出会って』みませんか？ [定員60名]

■運営 全私保連・保育・子育て総合研究機構研究企画委員会

●助言者

森 眞理氏●立教女学院短期大学准教授

●話題の提供と分かち合い／語り合いを進めるファシリテーター

福田 泰雅氏●全私保連保育・子育て総合研究機構研究企画委員会委員／鳥取・赤碕保育園園長

井出孝太郎氏●同研究企画委員会委員／静岡・えじり保育園園長

私たちは日々の保育の中で、どれだけ子ども／子どもたちと『出会って』いるでしょうか？

またそこから、どれだけ子ども／子どもたちの持つ“学びの力”に気づいているでしょうか？

「毎日かかわっているから…。子どものことはよくわかっている」それは、本当でしょうか？

本分科会では、「子どもって、すごい!」「子どもたちのこんな姿にも学びが隠されていたんだ!」という「わくわく」するような子ども／子どもたちとの出会いを、研究機構が提案している「わく ワーク シート」を使って、皆さんと語り、分かち合いたいと考えています。

そこで、参加する皆さんにお願いがあります！ぜひ、自園で研修された「こどもとであう」（「わく ワーク シート 1-3」／「保育通信」6月号同封）または、子ども／子どもたちの姿をスナップした写真1枚でも構いません、本分科会へお持ちください！

子どもとの出会いと一緒にわくわくしながら、語り合しましょう。分かち合いましょう。「わくわく」した出会いが、「わくわく」する明日の保育へとつながる学び合いの時となりますように。

全体のまとめ・ふりかえり

記念講演 「よい」保育とはどのように考えていけばよいのか？ …本質実践学としての構造構成主義の視座

西條剛央氏 ● 早稲田大学大学院商学研究科専門職学位課程（MBA）専任講師
「ふんばろう東日本支援プロジェクト」代表

西條剛央氏が東日本大震災後に立ち上げた「ふんばろう東日本支援プロジェクト」は、50以上のプロジェクトや支部、運営チームを3,000人もボランティアスタッフが支える日本最大級のプロジェクトとして3,000か所以上の避難所、仮設住宅、個人避難宅を対象に行政や赤十字社もできなかった実効性の高い支援を行ってきました。この活動のバックボーンになった理論が構造構成主義です。「構造構成主義」と聞くとむずかしそうですが、これは物事の最も重要なポイントである“本質”をシンプルにとらえることで、実践を飛躍的に向上させることを可能とする実践的な学問です。

本講演では、西條剛央氏の構造構成主義から「保育のグランドデザイン」を考える際の“本質的な考え方”について学びます。グランドデザインを考える際には「よい」保育や子どもにとっての「利益」といったように「価値」について議論することになるわけですが、そもそも「価値」とは何なのでしょう？また、「保育」とは「方法」に他ならず、「こちらの保育のやり方がよい」「いや、こっちのやり方のほうがよい」と多くの議論がされてきましたが、そもそも「よい方法」とは何に照らして判断されるのでしょうか？さらに、子どもたちはもちろん、保育者も一人として同じ人間はいないわけですが、すべての人間に共通する本質とは何なのでしょう？

じつは、こうした根本を押さえない限り、それぞれの「よい」がバラバラのまま議論が表層で空転してしまい、「保育のグランドデザイン」を建設的に構想していくことはできません。そこで本講演では、価値の原理、方法の原理、人間の原理のエッセンスをわかりやすく伝えていただいたうえで、『保育のグランドデザイン（よい保育の本質）』を考えていきます。これは、個々の保育現場で自分たちの『よい保育』を創り出す時にお互いの立場や経験、価値観の違いなどから起こる対立をどのように乗り越え、建設的に「よい保育観や実践指針」を導き出していくための「方法」を学ぶ場にもなると考えています。

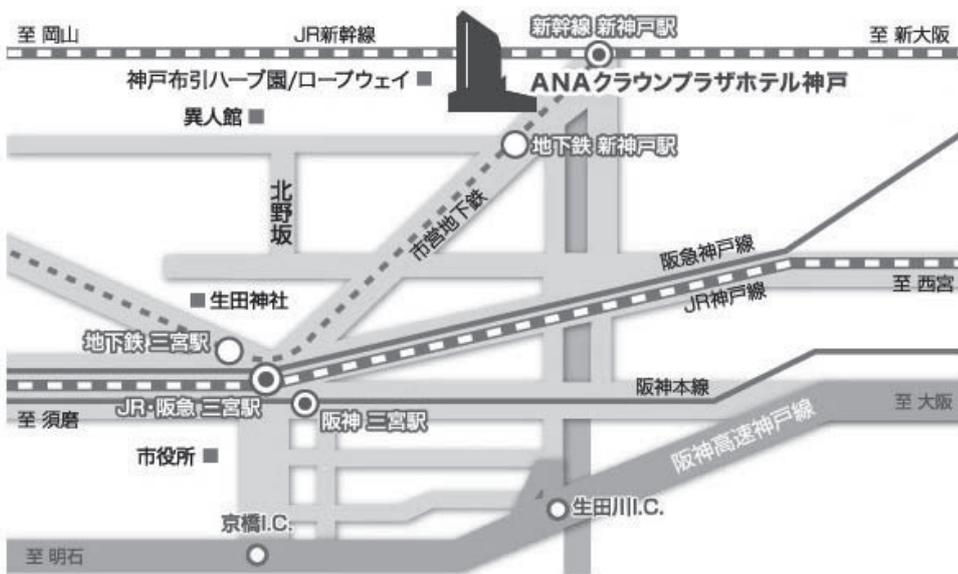
最深かつ実用的な学問をわかりやすく学ぶ貴重な機会です。最終日になりますが、皆さん奮ってご参加ください。

◆西條剛央 ● さいじょうたけお / 1974年宮城県仙台市生まれ。早稲田大学大学院人間科学研究科にて博士号（人間科学）取得。心理学と哲学を専門とし、「構造構成主義」という独自理論の創唱を機に、看護や医療の領域でも講演やワークショップ等を積極的に行っている。東日本大震災後は、この理論を用い、「ふんばろう東日支援本プロジェクト」を立ち上げ、物資支援プロジェクトだけで3,000か所以上の避難所、仮設住宅、個人避難宅などに35,000回以上、155,000品目もの物資の支援を実現した。その他にも、「家電プロジェクト」では赤十字の支援を受けられない25,000世帯の個人避難宅を中心に家電を支援し、「重機免許取得プロジェクト」では1,500名を超える被災者に無償で重機免許を取得してもらい現地の復興を仕事にしてもらうなど、50以上のプロジェクトや支部、チームが3,000人もボランティアスタッフにより運営される日本最大級のボランティア・プロジェクトへと成長させた。

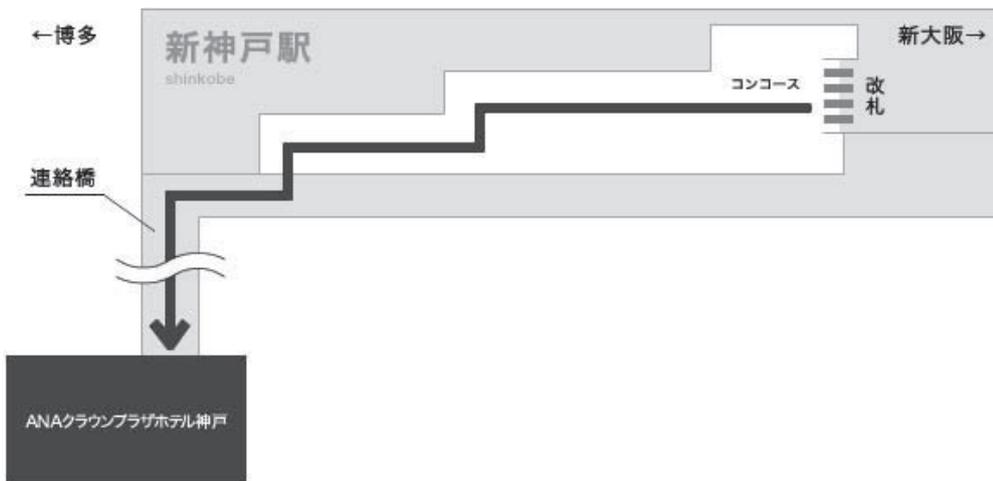
著書に、『母子間の抱きの人間科学的研究』『構造構成主義とは何か—次世代人間科学の原理』『なぜいま医療でメタ理論なのか—構造構成主義研究3』『看護研究で迷わないための超入門講座—研究以前の問題』（以上、北大路書房）、『人を助けるすごい仕組み—ボランティア経験のない僕が、日本最大級の支援組織をどうつくったのか』（ダイヤモンド社）など多数あり、絵本『はくもだっこ』（講談社）も手がけている。

日程

				12:00	12:30	13:00			17:00	18:30	
第1日目 (1月29日)	9:00			受付	開 会	基 調 報 告	行政説明	講演+シンポジウム		打 合 せ 会 分 科 会	懇 親 会
第2日目 (1月30日)			分 科 会		昼 食		分 科 会				
第3日目 (1月31日)		ま と め	記 念 講 演							16:30	閉 会
	9:30										11:30



- ◆山陽新幹線・神戸市営地下鉄「新神戸駅」直結
- ◆三宮（JR・阪神・阪急）より市営地下鉄でひと駅
 - * 関西国際空港より三宮まで：空港リムジンバスで70分
 - * 神戸空港より三宮までポートライナー18分



- ◆新幹線 新神戸駅からのアクセス
改札口からコンコースを直進し、
突き当たり左側の連絡橋渡ってすぐ

参加申し込み方法

参加申込書の送付

- * 申込書に必要事項をご記入のうえ、名鉄観光サービス(株)東京中央支店までFAXにてお送りください。

【申込締切日】 2013年12月6日(金)
(締切以前に定員に達した場合は、以後のお申し込みはキャンセル待ちとなります)



参加費のお支払い

- * 参加費は【申込書 兼 受付確認書】の返信を受け取り後、記載されている入金締切日までに下記の銀行振込口座にお振込みください。
- * ご入金の確認をもってお申込み完了となりますので、確実にお支払いくださいますようお願いいたします。
- * ご入金の確認ができなかった場合、受講できませんので予めご了承ください。
- * 当日精算はいたしませんのでご了承ください。
- * ただし、定員に達している場合はキャンセル待ちとなりますので、入金はお待ちください。

■ 参加費等振込み先
みずほ銀行 第五集中支店
普通預金 口座番号 0170666
口座名義 名鉄観光サービス株式会社

- ・振込人名義は社会福祉法人は省略し「〇〇保育園」にてお願いいたします。
- ・請求書の発行はいたしませんのでご了承ください。
- ・原則、領収書は発行いたしません。振込時の利用明細書をもって領収書のかわりとさせていただきます。申込書とともに必ず保管してください。
- ・振込手数料は各自負担となりますので、予めご了承ください。



参加券等の発送

- * 入金確認の取れた方には**1月8日(水)頃**、参加券・会場案内等を発送いたします。参加分科会は、この最終案内でご通知いたします。
- * 参加券等は当日必ずご持参ください。

【返金について】

- * 取消の場合でも参加費は返金いたしません。
代理参加は可(ただし、3日間通して同じ方の参加が原則です)
欠席された方には研修会終了後、資料をお送りいたします。
- * 宿泊費は1月21日(火)までにキャンセルの場合、返金いたします。

【その他】

- 前泊・後泊・旅券の手配についてご希望の方には、申込先の名鉄観光で取り扱います。直接お問い合わせください。
- 交通のチケット予約等は、申込受付が完了した後に手配してください。
- 体調不良・アレルギー等がありましたら、事前に事務局までご相談ください。

★個人情報の取り扱いについて

- ・「参加申込書」に記載された個人情報は、慎重に管理し、本研修会の運営・管理の目的に限り使用いたします。
- ・また、研修会の参加者名簿には「氏名」「都道府県・指定都市名」「施設名」「職種」を記載いたします。
- ・なお、本研修会の申込み受付等に関する業務を名鉄観光サービス(株)東京中央支店に委託・実施するため、上記の目的の範囲に加え、宿泊手配等のサービス提供を目的として情報を共有します。

◆問合せ (公社)全国私立保育園連盟 〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10
TEL 03-3865-3880 FAX 03-3865-3879

申込書記入について

※ 太枠内の記入をお願いします。
間違い防止のため、お名前などのフリガナは必ず記入ください。

会員・非会員のいずれか○で囲んでください。
登録コード番号は【保育通信】発送用封筒の貴園宛名行下段に印刷された番号です。⇒

名鉄観光より受付確認書の返信を受信後、記載されている期日までに必ず入金してください。
万一、定員に達している場合はキャンセル待ちの旨お知らせしますので、入金はお待ちください。⇒

- * この【申込書 兼 受付確認書】は施設毎に1枚ご記入ください。
用紙が足りない場合はコピーしてお使いください。
- * 申込書受付（受取）後、【申込書 兼 受付確認書】をFAXにて返信します。
万一お申込み後3日以内に受付確認の通信がない場合は、お問い合わせください。
- * 追加・変更・取消の場合は、【申込書 兼 受付確認書】控えにご記入のうえ、必ずFAXでご連絡ください。（申込日・変更日を忘れずにご記入ください）

申込内容等の確認連絡に対応いただける方の氏名と連絡先をご記入ください。⇒

お申し込み・お問い合わせ先	〒104-0031
名鉄観光サービス(株)東京中央支店	東京都中央区京橋2-7-14(ビュレックス京橋5F)
(担当：小寺・平戸・青木)	TEL 03(3535)3290
	FAX 03(3535)3296
	営業時間：月～金曜日 9:00～18:00 / 土・日・祝日休み

【参加費について】 ■ 1名につき会員17,000円 非会員19,000円です。⇒

【懇親会について】 ■ お料理はコース料理を着席スタイルにてご提供します。⇒

【分科会について】 ■ 各分科会ともに定員がございますのでお早めにお申し込みください。
■ 定員を超えた場合は他の分科会へ振替をお願いすることになります。
必ず第2希望までご記入ください。
第2希望のご記入がない場合は、こちらで振り分けさせていただきます。⇒

【昼食について】 ■ ホテル内にもレストラン等ございますが、混み合う可能性と限られた時間しかございませんのでご留意ください。なお、ホテル規則により会場で用意するお弁当以外の食べ物の持ち込みはご遠慮いただいておりますので、予めご了承ください。⇒

【宿泊について】 ■ 料金はシングル12,000円 ツイン9,500円（1泊朝食付）です。
■ 同室希望者が同一園 ⇒ お名前を記入ください。
■ 同室希望者が他園 ⇒ 園名・お名前を記入ください。
■ 同室希望者が複数 ⇒ 備考へ記入ください。
■ シングルタイプのお部屋を希望の方はお早めにお申し込みください。（200ルームご用意しております）⇒

■ 喫煙・禁煙ルームについては、部屋数の関係でご希望に沿うことができない場合がございますので、ご了承ください。⇒

■ 返金の場合の送金先を正確にご記入ください。⇒

申込書 兼 受付確認書

送信先FAX 03-3535-3296

新規 ・ 変更 ・ 取消

○で囲んでください

都道府県		
組織名		
	会員	非会員
登録コード番号	—	

		名鉄観光 記入欄	
申込日	月 日	月 日	受付しました
変更①	月 日	月 日	受付しました
変更②	月 日	月 日	受付しました

⇒

⇒

□入金締切日は (月 日) です。
 □定員に達していますのでキャンセル待ちとなります。
 入金はお待ちください。(キャンセル待ち 番目)

名鉄観光サービス(株)東京中央支店
 TEL 03 (3535) 3290 FAX03 (3535) 3296

施設名	フリガナ		
住所	(〒 -) ※必ずご記入ください		
連絡先	TEL - -	FAX - -	
担当者連絡先	氏名	連絡先(携帯番号等)	- -

⇒

《 記入例 》

1

2

3

参加者名	必ずご記入ください			フリガナ	フリガナ	フリガナ
	コウベ ハナコ 神戸 華子					
職名	園長					
性別・年齢	男・ <input checked="" type="radio"/>	(50) 歳		男・女 () 歳	男・女 () 歳	男・女 () 歳
参加費 <small>(会員17,000円/非会員19,000円)</small>	<input checked="" type="radio"/> 会員	非会員	17,000	会員 非会員	会員 非会員	会員 非会員
	<input checked="" type="radio"/> 要	不要	8,500	要 不要	要 不要	要 不要
30日(木) 希望分科会	第1希望	1		第1希望	第1希望	第1希望
	第2希望	4		第2希望	第2希望	第2希望
昼食 (1,800円)	<input checked="" type="radio"/> 要	不要	1,800	要 不要	要 不要	要 不要
宿泊希望	28日(火)前泊	シングル		シングル	シングル	シングル
		ツイン		ツイン	ツイン	ツイン
	29日(水)	シングル		シングル	シングル	シングル
		<input checked="" type="radio"/> ツイン	9,500	ツイン	ツイン	ツイン
	30日(木)	シングル		シングル	シングル	シングル
		<input checked="" type="radio"/> ツイン	9,500	ツイン	ツイン	ツイン
31日(金)後泊	シングル		シングル	シングル	シングル	
	ツイン		ツイン	ツイン	ツイン	
宿泊代合計			19,000			
同室希望者	たいとう保育園 蔵前 華代					
喫煙禁煙希望	喫煙	禁煙	<input checked="" type="radio"/>	喫煙 禁煙	喫煙 禁煙	喫煙 禁煙
個人小計			46,300			
備考					合計金額	円

⇒

⇒

○返金の場合の送金先

銀行名	支店名	口座番号(普通・当座)	口座名義(ふりがなをつけてください)

⇒